

京都文教大学「こども教育学部研究紀要」投稿規程

(投稿資格)

第1条 本誌に掲載する論文等の投稿者は、本学の教職員（非常勤講師を含む）及び大学院生・大学院研究生に限る。ただし、共著論文において、共著者に本学の教員が含まれている場合や、編集委員が執筆を依頼する場合、あるいは京都文教大学こども教育学部研究紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が必要を認めた場合も投稿を可能とする。その場合は、編集委員会の審議を経てその可否を決定するものとする。なお、在籍中の大学院生、大学院研究生が投稿する場合は指導教員の承諾書を添付しなければならない。

(編集委員会)

第2条 編集委員会は、こども教育学部専任教員の中から選出された者2名及び当該年度学科長の合計3名の委員をもって構成する。

- 2 専任教員の中から選出された委員の任期は2年とし、1年ごとに委員の半数を改選する。ただし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員が生じたときは補充を行う。ただし後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(投稿原稿の種類及び掲載量)

第3条 掲載原稿は、子どもの教育・保育・発達・臨床・福祉などに関わる論文、研究ノート、研究報告、資料、活動報告、シンポジウム及び講演会の記録、書評、コラム、その他編集委員会が認めたものとする。

- 2 投稿区分及び掲載決定は下記のとおりとする。
 - (1) 論文：新しい価値のある結論・事実・知見を含む学術論文で、他に未発表のものに限る。（概ね40字×40行×12.5頁、20,000字程度）
 - (2) 研究ノート：研究における速報的なものあるいは萌芽的なもので、他に未発表のものに限る。（概ね40字×40行×10頁、16,000字程度）
 - (3) 研究報告：子どもの教育・保育・発達・臨床・福祉などに関わる研究領域に関する報告で、他に未発表のものに限る。
 - (4) 資料：質的・量的研究並びに調査において得られた資料・データ・聞き取り記録等に関する報告で、他に未発表のものに限る。
 - (5) 活動報告：子どもの教育・保育・発達・臨床・福祉などに関する活動報告で、他に未発表のものに限る。
 - (6) シンポジウム及び講演会の記録：教職員が関与したシンポジウム及び講演会等の記録とし、他に未発表のものに限る。
 - (7) 書評：新たに発表された著書・論文の紹介・批評等を内容とし、他に未発表のものに限る。
 - (8) コラム：子どもの教育・保育・発達・臨床・福祉などに関する執筆文で、本報告への掲載が望ましいと思われるもの。他に未発表のものに限る。
 - (9) 論文、研究ノート以外の原稿については、編集委員会がおおよその分量を指示する。
- 3 執筆原稿は日本語又は英語で執筆するものとする。
- 4 論文・研究ノートには、日本語での執筆の場合は英文の要旨(300－400words)・題名・著者名、英語での執筆の場合は和文の要旨(600字程度)・題目・著者名を付ける。各要約の末尾には、それぞれの言語で3語のキーワードを明記する。

(投稿申し込み)

第4条 投稿に際しては、あらかじめ編集委員会から指定された方法により申し込みを行うものとする。

(原稿提出上の注意)

第5条 投稿原稿は完成原稿を汎用ワープロソフトで作成された電子ファイルで提出するものとする。ただし、原稿の体裁や種類については編集委員会で検討した後、変更を依頼することもある。

2 投稿者は編集委員が指定した提出期限を厳守するものとする。

(原稿の掲載決定)

第6条 投稿原稿は、その採用を編集委員会において決定する。ただし論文及び研究ノートについては、掲載決定前に査読を必要とする。

(校正)

第7条 執筆者校正は2回までとする。

(著作権等)

第8条 本研究紀要に掲載された論文等の著作権は京都文教大学に帰属する。ただし、著作者自身が、自分の論文等の全文又は一部を複製、翻訳・翻案などの形で利用することができる。

2 本研究紀要は、国立情報学研究所の学術機関リポジトリ構築連携支援事業のもとで、原則として電子化し一般公開を行う。

(所管)

第9条 この規程に関する事務は、図書館・研究支援部研究支援オフィスが行う。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、編集委員会、教授会、大学運営会議の審議を経て、学長の決裁により行う。

附 則

本規程は、令和2年11月1日より施行する。

令和3年4月1日改正（第10条）

令和5年4月1日改正（第3条改正、第5条削除、第5条以降条変更、第9条改正）

編集後記

「こども教育学部研究紀要」第4集を発刊することができました。今年度は、研究論文5編、研究ノート1編、報告4編の計10編からなります。精力的に執筆してくださった投稿者、査読の労をおとりくださった方々、そして研究支援オフィスの皆様には、この場を借りて心から感謝申し上げます。

教育分野の研究成果を公表できる場の拡大に少しでも貢献できたのであれば、この上ない喜びです。

教育や子育て支援における様々な課題に対する実践的研究が強く求められる現代社会において、我々がめざす現場往還教育や、保育や教育の現場に還元できる研究や教育活動への使命はますます大きなものとなっています。我々のささやかな研究活動が今後も継続していくよう、なお一層努力してまいります。

今後とも、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、忌憚のないご意見、ご批評をいただければ幸いです。

執筆者紹介（掲載順）

本	山	益	子	京都文教大学・こども教育学部 学部長・教授
柴	田	長	生	元京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・教授
大	前	暁	政	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・教授
鷗	飼	洋	子	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・准教授
清	水		脩	琵琶湖大橋法律事務所・弁護士
大	森	弘	子	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・准教授
安	和	晃		京都大学・文学研究科・准教授
大	崎	千	秋	名古屋柳城短期大学・保育科・教授
山	崎	イチ	子	元花園大学・教授
中	島	千	恵	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・教授
橋	本	祥	夫	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・教授
北	野		諒	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・講師
林		雅	清	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・教授
後	藤	裕	也	目白大学・外国語学部・中国語学科・准教授
西	川	芳	樹	関西大学・非常勤講師
平	尾	和	之	京都文教大学・臨床心理学部・臨床心理学科・教授
下	村	勝	平	京都文教大学・こども教育学部・こども教育学科・講師

2024年度 編集委員会

※橋本 祥夫・大前 暁政・大森 弘子 ※委員長

こども教育学部研究紀要

第4集

2024年9月1日 発行

発行 京都文教大学

〒611-0041 京都府宇治市槇島町千足80

電話 (0774) 25-2400

印刷 株式会社 田中プリント

〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入石不動之町677-2

電話 (075) 343-0006